

# 処方箋

カルテ番号		発行	年	月	日
病名					
処方	<p>           ・薬剤名（一般名）：フロセミド            ・英名：Furosemide            ・分類：利尿            ・分類（略称）：ループ利尿薬            ・用法：経口（錠、細粒）静注            ・表示区分：なし         </p> <p>           [禁忌・慎重投与]            ・禁忌：無尿の患者、肝性昏睡の患者、体液中の Na、K が明らかに減少している患者、スルフォニアミド誘導体に対して過敏症の既往歴のある患者、デスモプレシン酢酸塩水和物投与中の患者。         </p> <p>           [作用]            近位尿細管から有機アニオン輸送系を介して分泌され、ヘンレ係蹄上行脚の管腔側から作用し、<math>\text{Na}^{+}\text{-K}^{+}\text{-2Cl}^{-}</math> 共輸送体を阻害することで NaCl の再吸収を抑制する。それにより尿濃縮機構（対向流増幅系）を抑制することによって、ほぼ等張の尿を排泄させる。また、血管拡張性プロスタグランジンの産生促進を介する腎血流量を増加させ利尿効果をもたらす。         </p> <p>           [適応]            （本態性・腎性等）高血圧症、悪性高血圧、心性浮腫（うっ血性心不全）、腎性浮腫、肝性浮腫、月経前緊張症、末梢血管障害による浮腫、尿路結石排泄促進         </p> <p>           [副作用]            アナフィラキシー、再生不良性貧血、無顆粒球症、血小板減少、難聴、聴覚障害、TEN、SJS、心室性不整脈、低ナトリウム血症、低カリウム血症、高血糖症など。         </p> <p>           豆知識（国試対策事項や使用の注意等）            ●利尿効果が強力なため、就寝前などトイレに行けないタイミングでの服用は避ける。分 2 服用の際は朝昼など。            ●サイアザイド系利尿薬の 3 倍程度の利尿作用を有する。            ●一方で、高血圧症に対して適応はあるが、サイアザイド系利尿薬に比べ降圧効果は弱い。            ●そのため、高血圧症の第一選択薬ではない。            ●効果持続はおよそ 6 時間程度            ●腎血流量の増大効果があるため、GFR20mL/min 以下の腎機能低下患者に対しても利尿効果を得ることが出来る。            ●錠剤は光によって黄～褐色に着色するため遮光の赤い PTP に入れている。         </p>				